

植物観察記録

- ・日 時 令和5年4月14日（金）そら組『野草料理』（新人歓迎会）
午前10時50分～12時
- ・講 師 そら組専任講師 岡田弘先生
- ・参加者 新入生他5名
- ・場 所 淀川大塚河川敷公園



・観察した草本(20種)

ナヨクサフジ…葉は互生、羽状複葉

ミミナグサ…葉は十字対生、耳たぶ似。5枚の花弁は先に浅く切り込み

セイヨウタンポポ…花弁が多い、ほぼ周年花をつける、自家受粉する

シロツメクサ…白い花が咲く。輸送船に敷き詰めて運ばれて日本に帰化

ナズナ…春の七草のひとつ。茎が三味線のバチに例えてペンペン草とも言う

ムラサキサギゴケ…花の形がサギに似て、コケのように地面を這い

つくばって広がり群生。白花を付けるものがある。



オオイヌノフグリ…種が犬のフグリに似ているから。花は朝開いて夕方までに散る。

虫が来なかったら、自家受粉で種づくり。



ヤエムグラ（8枚の葉）…偶数葉で2～8枚が輪生。茎は四角。

ノジシャ…サラダ菜（チシャ）として栽培されていたが、野生化した。

セイタカアワダチソウ…葉っぱは細長いロゼット状、茎が茶色。黄色花は秋に咲き穂全体が泡立つように見えるから。

ウマゴヤシ…名前は飼料として与えると馬が肥えるから。葉は3枚の小葉がつく。

黄色の蝶形花を複数咲かせる。

オオバコ…葉っぱが大きく、ヘラの形。道端でみかけ、秋頃まで穂が出ている。

道に迷ったら、オオバコを手掛かりに。

カスマグサ…カラスノエンドウとスズメノエンドウの自然交雑種。全体にこの二つの中間ほどの大きさから、カラスとスズメの間という意味が名の由来。花は花柄の先に2個つく。

カラスノエンドウ…花は紅紫色の蝶形花。葉は羽状複葉。種子の鞘がカラスに似て黒い。

ノイバラ…花は白い。新芽を食用。

キンポウゲ…5枚の花弁が太陽の光を受けて、キラキラ輝いている。有毒。

マツバウンラン…茎の先に青紫の小さな花。葉は松葉のように互生

スズメノカタビラ…空き地や道端、人家の周囲など至る所で見かける。

ヨモギ…モチクサとも呼ぶ、若葉を摘んで草餅に入れる。

アメリカフウロ…道端や庭、荒地などに生え、春から秋まで次々と花を開く。

（雑感）

岡田先生を講師に新人4人が実習を受けました。先生の草本の説明は単に花の名前にとどまらず、花や葉の特徴、名の由来、当該草本の関連したお話など細かく幅広くかつ、奥深く拝聴させて頂きました。限られた時間でも有りましたが、改めてとても有意義な有難い時間でした。

記録:6班鈴木 治